

～巻頭言～

「目が開かれ、世界が変わる」

イエスは言われた。「見えなかったのであれば、罪はなかったであろう。しかし、今『見える』とあなたたちは言っている。だから、あなたたちの罪は残る。」ヨハネ 9 章 41 節

生まれつき目が見えなかった男性がイエスに癒され、視力を得ます。人々の問いに答えるうちに、霊的な目も開かれ、ついにイエスを救い主と告白し、礼拝する者へ変えられていきました。しかし宗教の専門家たちは奇跡を否定し、イエスを安息日規定を破る罪人と決めつけます。自らの正しさに固執して真理を見ようとせず、霊的な盲目に陥っていた彼らに対して、冒頭の聖句をイエス様は言われたのです。

ようやくひんやりとした秋の空気を吸い込んで、ほっと一息つける季節になりました。秋の夜長、いかがお過ごしでしょうか。私は昨日横になっている時に、あー、と叫びたい思いに駆られました。「起きなさい、起きないと困るでしょう。ひと眠りするから後で起こしてと言うから起こしてるけどもう知らないよ、もう私も寝るよ」と言いながら何度も何度も起こしに来てくれていた姉の声が耳元に甦ってきたのです。幾晩も何年も繰り返された出来事でしたが、「優しく綺麗と言われるけれど私にはあまり優しくないと寂しく思い込んでいた私は、亡き姉の愛を読み取り深く感謝することもなく、忘れ果てていたのです。

私こそ見えているつもりで見えていなかった罪人でした。「ごめんなさい、ありがとう」涙が出ます。いつも寄り添ってくれていたぬくもりへの気付いです。こんなことが一杯です。神の愛もまた、そうです。

牧師 大月 康子

グループ交流会が開かれました

今年5月に続いて、10月12日(日)礼拝後の45分間、4グループに分かれて教会交流会を行ないました。集会室(リーダー:S 姉)、CS 室(リーダー:K 兄)、会計室(リーダー:S 兄)、母子室(リーダー:T 姉)に18名の方々が参加され、“これからの教会はどのように進めていけばよいか” “今年のクリスマス祝会のアイデア募集” “来年の地区聖会”などのテーマをきっかけに自由に交流しました。

ふだんの礼拝後にとっても、なかなかゆっくり話せないのも、こういう機会は嬉しい、時間が足りない、といった声をいただきました。懸案事項は役員会で協議され、今後に生かされるよう期待したいと思います。

(2面に写真を掲載しています)





グループの様子



地区聖会に参加して

K.E 姉

9月14日夕から15日昼まで呉教会に於いて地区聖会が開催され、我教会からは大月師他3名で出席しました。戦前、戦艦を作っていた街と言う暗いイメージを抱いていたが呉が近づくにつれその思いは払拭された。三方を緑に囲まれ一方は海を眺望する景色、大通りの両側からは建物の高さから整備されてるような美しい街でした。この街も戦禍にやられ、焼け野が原だったという。呉教会の方々が暖かく迎えて下さり、特にシニアの方々の讚美は心を打ちました。そして生き生きとした表情は今でも記憶に新しいです。礼拝堂の壁面のステンドグラスの放す光に癒されました。

1日目小山教会の稲葉基嗣先生の創世期1章27節 神はご自分にかたどって人を創造された。イスラエルがバビロン捕囚などごちゃごちゃ、ボロボロになった時でさえ、神は諦めなかった。秩序と正義を与えられた。と。今混沌とした現代も然り。神を信じて邁進することが諦めずに生活することだ、と力強いメッセージをいただきました。

2日目は私達の働き方改革は労働と休息に絞り休息を取るにより立ち止まり、考える。見過ごしているか？省みる。小さな一步を希望を持って進めば神は変えてくれる。聖会を通して[ローマは1日にしてならず]毎日の祈り、聖書に接すること、少しずつの努力だと思いました。

山村兄の上手な運転で疲れもなく感謝な2日間でした。私は呉教会が初めてでしたが、岡山教会の素晴らしい立地条件、豪華な建物、内外の広さを思うに付け、先人達の思いを痛感しました。私達に今なにができるのか？問われる課題です。老人ばかりで若い人が少ない。どの教会も同じです。

祈りながら、模索していきたいです。来年は我が教会が聖会当番になっています。

皆で力を出し合い、良き集い出来るよう、祈り上げます。